

24. 安芸郡熊野町最高峰

原山 (671.9m)

安芸郡熊野町／広島市安芸区



熊野川と瀬野川に挟まれた俗称安芸アルプスに連なる山で銚取山への縦走で訪れるがあまり意識せず通り過ぎる山。山頂近くに無線中継所のアンテナがある。

安芸郡熊野町	2017,4,1 推定
<面積>	33.76 km ²
<人口>	23,402 人
<人口密度>	693 人/km ²

【山行日】 2月25日 (日) ☆天候：曇り時々晴れ

【参加者】 9名 CL 中島 恵 SL 滝 史郎

宮木(澄) 三村 新江 藤原 反田 中島(靖) (会友)藤井

【コースタイム】

安芸中野駅 8:00→成岡登山口 8:35→天狗坊山 10:00→原山 11:00→見晴らし広場 11:25→11:45 銚取山・昼食 12:15→舁越峠 12:55→坂山 13:30→神原登山口 14:30→瀬野駅 14:55

【報告】

山行当日、昼頃下り坂の空模様を気にしながら9人で安芸中野駅を出発。

歩きはじめ冷たかった風も、登山口から続く急登を上り始めると身体の熱さを冷ましてくれる良い清涼剤になりました。以前登った時は天狗坊山山頂までの道のりもかなり長く感じたのですが、今回は前回よりしんどい思いをせず、歩くことができました。赤い鉄塔が近くにある周りの木々に囲まれて展望はあまり良くない、原山山頂で30周年記念登山の記念撮影をすませ、一度路上に出て、見晴らし広場へ。子供会の行事で銚取山に来ていた子供達が、



ブルーシートを広げ昼食準備をされていて、賑やかな声が辺りに響いていました。銚取山山頂は落ち葉のジュータンが敷き詰められた、両サイド白い木が続いた坂道の遊歩道を登りきった所にありました。

お弁当を食べる時は冷たい風も吹かず、時折陽がさす中でのんびりのどかな時間が流れました。30分位休憩をとり次の山、坂山を目指しました。休憩毎に会話を楽しみ和やかな山行となりました。会話の中の収穫事として山登り用リュックの胸の前で固定するベルトの接続部分が笛になっているのを聞いて驚きました。予定時間より少し早く下山でき、参加して下さった皆様のご協力に感謝の1日を今日も終えることができました。

(記 中島 恵)

熊野町と言えば筆の里だが・・・

原山の麓、熊野町は筆の日本最大生産地で全国一シェアを誇る。広島市の小学生は3、4年になると社会科で必ず熊野筆について学習する。

「四方を山で囲まれ、耕地面積も広くない熊野村は農業だけでは生活が成り立たないので農閑期を利用して奈良地方から筆や墨を仕入れそれを売りさばっていた。江戸時代、井上治平という人が、浅野藩の御用筆司から製筆の技術を学び、同じ頃、乙丸常太という人が兵庫県有馬で製筆技術を習得して帰り、2人とも村人にその技術を教えて筆作りが盛んになった。」

現在、注目を浴びてる“半農半X”の先駆けである。筆だけでなく熊野村は芸州かやぶき職人の輩出地でもある。

かつて日本の民家はススキ、チガヤなどを使った茅ぶき屋根が殆どだった。各集落には茅ぶき職人が多数いて、村人共同で屋根を守っていた。そんな中、明治時代後期から昭和30年代頃まで、西は北九州から東は滋賀の方まで集団で出かけて、屋根をふき替える広島の茅ぶき職人がいた。「芸州屋根屋」「芸州流」「芸州屋根師」などと言われていたそう。日本の民俗文化を映像で残してきた姫田忠義氏のもとでドキュメンタリー映像作家として研鑽を積んだ広島出身の青原さとし氏が製作した『藝州かやぶき紀行』には熊野町が出てくる。農閑期を利用して出稼ぎに行っていたのだ。中山間地域の多い広島県の農民は米作りだけに依拠せず様々な手立てを講じながら生きてきたのだ。

参考：きょうど広島(副読本)、ドキュメンタリー映画『藝州かやぶき紀行』2005年撮影

筆の生産技術を伝えた
井上治平・乙丸常太を称える

熊野筆毛筆元祖頌徳の碑



熊野町茅葺き民家



安芸熊野町最高峰 原山山頂で



今までやまぼうしで登った安芸郡熊野町の
他の山

三石山 観音山 洞所山
天狗坊山 城山